

平成 23 年度国際文化学部教授就任講義

平成 23 年度第 3 回（通算第 39 回）山口国際文化学研究会

グローバル・エイジング時代における 「珣啄同時」の関係

日時：平成 23 年 6 月 22 日(水) 16：10 - 17：40

場所：C 1 2 教室

講師：金 恵媛 国際文化学部・大学院国際文化学研究科教授

気が付くと「人生 80 年時代」になっている。人口高齢化が、日本の厳しい将来像の主要な背景として語られるようになって久しいが、百寿時代はすでに目前に迫っている。ポジティブな大衆長寿時代の具現化には何が求められているのであろうか。

本報告では、内閣府による「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（以下、本調査）を取り上げ、日韓の高齢社会問題の理解及び課題への取組状況について考察する。

本調査は、1980～2010 年において実施されているが、日本の高齢者の生活や意識に関しては大きな変化が認められない。それに対し韓国の高齢者については、家族関係、経済生活、生きがい、そして社会との関わり等、あらゆる分野において著しい変化が観察されている。この 30 年の間、韓国社会が劇的な変動を経験していること、そのことが高齢者自身はもちろんのこと、高齢期の生活環境に強く影響していることがわかる。

本調査の分析から、高齢者とその家族、地域、そして公的機関との有機的つながりをどのようにつくっていくか、そのヒントを得たいと考える。さらに、日本、韓国をはじめとするアジア諸国においては急速に高齢化が進んでいる。高齢社会問題と関連して、関係諸国がどのような協働関係を築き、持続していくことができるかについても一緒に考えていきたい。

キーワード：グローバル・エイジング 大衆長寿時代 福寿と恍惚 「珣啄同時」の関係

主催：国際文化学部・大学院国際文化学研究科